つる性植物の成長対策

1．概要

出張所で梅雨から夏にかけて草刈りの行政相談を多く受ける中、国道沿線の除草作業ではつる性植物（ツタ類）の処理に手間がかかっている。
予算や人手が限られている中、道路利用者に快適に道路を通行してもらうため、メンテナンスフリーを目指し、つる性植物がガードパイプ等に絡みつかないようにシートによる対策を行ったので結果を報告する。

つる性植物(ツタ類)は・・

- 夏場の成長スピードが著しい → 除草回数が増加
- 柵等に絡みつき、撤去に手間がかかる → １箇所当たりの作業時間が長い

→ 管理コスト UP!!

2．設置場所

国道23号海部郡飛島村西梅の
田んぼに面するガードパイプ

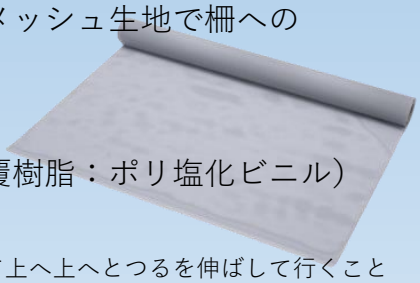
田んぼ側のり面からつる性植物が這い上がり、歩道上を覆ってしまうが、歩行者がほとんどおらず、年1回の草刈りのみとなっている。
行政相談があった場合は都度対応している状況。

3．方法

つる性植物の歩道への侵入・ガードパイプへの絡みつき抑制に重点を置いて試験を実施。
ガードパイプの１スパン（3m）に設置し、周辺の未設置部とのつる草の巻付き・登はん※状況を比較する。

【つるガードネット】
つるが通らない目の細かいメッシュ生地で柵へのつるの絡みつきを防止。
色は目立ちにくいグレー色。

◎材質：ポリエステル（被覆樹脂：ポリ塩化ビニル）



メリット
- 柵を乗り越えにくい
- つるを簡単にはがせる
- 施工が容易
- 紫外線・風に強い

※登はん：他の木などにしがみついて上へ上へとつるを伸ばして行くこと

4．試行結果

設置（令和2年8月）

繁茂しているつる性植物を刈り取り、きれいな状態にして試験設置、経過を観察した。
なお、試行期間中は行政相談がなかったため、1度も草刈りをしていない。

50cmごとにスリムロック（結束バンド）でネットを固定
裏側はアンカーピンで地面に固定
ガードパイプの支柱部はネットを切って加工

経過

令和3年8月撮影

○：巻付きまたは登はんが確認できた。
×：巻付きまたは登はんが確認できなかった。

	巻付き（法面）	登はん（法面）	巻付き（歩道）	登はん（歩道）
設置	×	×	×	×
未設置	○	○	○	○

未設置区間から歩道へのつるの侵入が一部あった。
設置箇所裏の法面部にはつる性植物の繁茂していたが、ネット上への登はん・巻付きはなかった。

令和4年7月撮影

	巻付き（法面）	登はん（法面）	巻付き（歩道）	登はん（歩道）
設置	○	×	○	×
未設置	○	○	○	○

未設置区間のつる性植物はさらに繁茂しており、設置箇所にも未設置区間からつるが伸び、絡みついていた。ただし、ネット上を這っていたつるは簡単にはがすことができた。

5．まとめ

全面的に施工した場合、メンテナンスフリーが期待できる

- シート設置箇所はつる性植物による歩道の通行阻害が見られなかった。
- シート上の登はんは見受けられなかったので、つる性植物の登はんを防ぐ効果が期待できる。
- 今回はワンスパンでの試験施工であったため、シート未施工箇所からつる性植物が歩道上へ繁茂してしまった。シートを避けてつるが繁茂するため、シート周辺の定期的な草刈りは必要になる。
- 経過観察後、つる性植物を撤去したが、シートには損傷や劣化が見られなかった。